



A R T

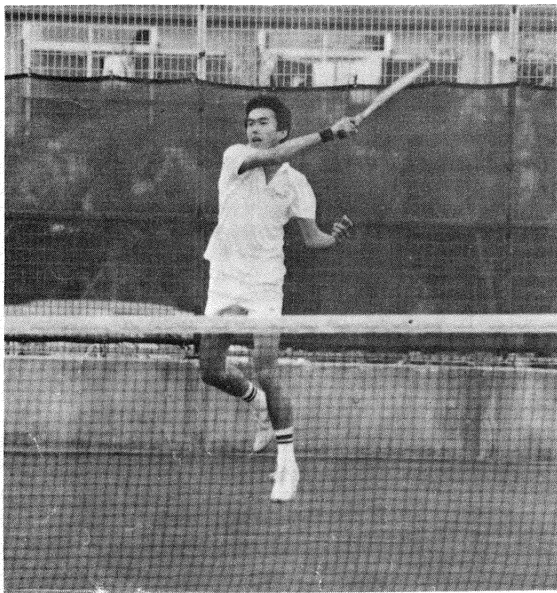
All Rikkyo Tennis

立教大学体育会庭球部部報

発行所
立教大学体育会庭球部
〒171 豊島区西池袋3丁目
電話 (985) 2680
発行人 吉田 耕一郎

一部復帰を目指せ！

立教テニスの復活を！！



再び一部への道を目指して

庭球部長

伊藤謙哉

寒さが漸くやわらぎ、今年もリーグ戦が近づいてきました。前号のキャッチフレーズであった「即二部復帰」を果して皆様のお手許にART第三号をお届けすることができ、正直なところ、ほっとしたよろこびにひたっています。これもひとえにOB諸兄の日頃のご指導、ご協力のたまものと存じ、深く感謝しております。

ふり返って、学生たちもまた部としても、いろいろと貴重な経験をしたことと存じます。とくに今春集立つ四年生諸君は、その大量パワーで当面の目標を成しとげ、後輩に上への道をつなげたことでさわやかな満足感を分かちあっていることでしょう。相撲の世界では、ひとたび十両へ陥落した力士は実力があってもなかなか幕内へ返り咲けないといわれています。一月の体育会総会において庭球部が「体育会奨励賞」を受賞したことは、一シーズンで二部に返り咲けたことが評価の因であり、まことに喜ばしいことですが、そここめられている期待の大きさを、われわれはきびしく受けとめる必要があると存じます。

リーグ戦に臨む現役の学生たちは、二部即復帰という実力から見て当然とはいえず、それを立派にやりとげた自信と精神力に戦をめぐして決意を新たにしております。

OBの方々におかれましてはお忙しいとは存じますが、時間をつくって頂き、ご指導ご鞭撻下さいませよう、この場をおかりして心からお願ひ申し上げます。

発刊にあたって

庭球部OB会長

田中富弥

昨年は、小西監督、倉光ヘッドコーチ以下の良き指導者を得て、現役諸君は練習に励み、予定通り二部復帰を果しました。これもOB各位の物心両面からの温かなバックアップのお陰と厚く御礼申し上げますと共に、今後も引き続き、宜しくお願い致します。

そして本年は、何とか一部復帰への足がかりの年にすべく、役目は張切っておりますので、健闘を期待しております。最終に、OB各位の益々の御多幸、御健勝を心から祈念申し上げます。

小西先輩

全日本壮年優勝

昭和五十九年九月十七日より、福島県郡山市市宮コートで行われた全日本壮年選手権大会において、本学庭球部監督である小西一三氏(昭和三十七年卒)が見事優勝を遂げた。同氏は、本学在学中に全日本学生選手権を、また社会人になってから全日本選手権を制しており、今回の優勝によって全日本のビッグタイトルすべてを制したことになる。

たてこい生きてた魂

立教 昭和59年度 リーグ戦

二部復帰を果たす

立教テニスは死んでいなかった。昭和五十九年四月二日より二十二日まで行われた関東大学テニスリーグ男子第三部に於て本学は全勝優勝を果し、入れ替え戦にも勝って二部に復帰した。昨年の三部降格という屈辱を、部員全員が忘れずに、厳しい練習に励み、そして果たした二部復帰であった。

今回のリーグ戦前、本学は合宿を三回行った。名古屋レギュラー合宿、波崎合宿、そしてリーグ戦の直前に行った志木合宿である。この三回の合宿により、本学は全部員が万全の体調で一丸となってリーグ戦に臨んだのである。

三部リーグ戦は、晴天に恵まれ、ほぼ日程通り行われた。本学は、このリーグ戦の山とみられていた一橋大戦・学習院大戦を選手の手頑張り、他部員達の応援で乗り切り、全勝で三部リーグ優勝を果たした。本学にとって、この両対戦が自陣であ

立教大学体育会

庭球部の歴史

主務 吉田耕一郎

この度、私は、立教新聞を作るに当り、立教テニス部の歴史を調べようと思ひ立ち、OB諸君に相談した所、「それは良い事である。」との賛成の意を賜わり、微力ながら、歴代主務、主務及びリーグ戦結果、につき独自の調査を行いました。しかし、なにぶん、資料が不足しております上、記録として残っていない部分も多々有り、私一人の調査では、表の所まで調べるのが精一杯でありました。つきましては、大変失礼とは存じますが、表の事項について何か資料をお持ちの方がおられましたら、私、吉田の所まで御知らせ頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

△連絡先▽

〒二五五 神奈川県中郡大磯町東町

吉田 耕一郎 一〇一十一

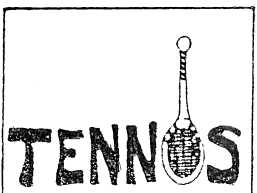
TEL 〇四六三六一一六〇〇

又は、

〒一 東京都豊島区西池袋三丁目

立教大学体育会庭球部

尚、体育会本部へ残されております記録を、6面、7面に掲載してございますので、ご参考にしていただければ幸いです。



昭和60年度年間スケジュール											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リーグ戦	テニス選手権大会 春期関東学生		OB総会	テニス選手権大会 全日本学生	テニス選手権大会 秋期関東学生	同立定期戦	新進テニス選手権大会 OB東西対抗戦	明立定期戦	納会		春期合宿

OBの声

勝負に想う

小西一三 先輩
(昭和37年卒)

人は誰でも、自分が目指したスポーツで試合に勝ちたいと思っている。いくら多くの練習を積んでも、それが即、試合に勝つ事にはつながらない。試合に勝つとは、どういう事なのか。私の昭和五十九年のテニス選手としての体験の中から考えてみようと思う。

昭和五十九年一月一日、私は一つの誓いを立てた。それは全日本選手権に優勝する事である。その為に必要な事は何か。壮年部内での実績は、この年四十五才になる私には当然何もなかった。様々な難関を突破しなければならなかった。出場資格を得る事。練習を積む事。どんな選手がいるのか研究する事等々……

そこで一年間の試合スケジュールを、春の東海選手権、夏の関東オープン、秋の全日本に絞り、計画的に練習していく事にした。むらっけのある私が、今迄での人生で、これ程計画的に真剣に取り組んだ年は始めてであった。

それは二つの理由があった。一つは、学生時代、全日本学生選手権と、社会人になって全日本選手権に優勝しているの、ぜひ壮年でも優勝し、三つの全日本タイトルがとりたかったのである。二つ目は自身がテニスを始めて、この年でまる三十年になるので、一つの区切りとしてどうしても優勝で飾りたい一念があったからである。

さて、第一の目標である東海毎日選手権大会であるが、この大会は優勝者が無条件で全日本大会への出場資格を得られるという意味で、大変重要であった。この大会には、私と同じくこの年壮年でデビューした広瀬選手(元テニスマスター)が出場し、お互いノーシードから勝ち上って決勝戦を迎えた。名城テニスクラブ、センター

コートに立った私は、久しぶりに緊張した試合で、友人でもある広瀬選手の知りうる限りの弱点を攻めまくり、6-3、6-1のスコアで優勝する事が出来た。この大会では、ダブルスで広瀬選手と組んで優勝し、初出場が単複制覇と、まずは快調な出足であった。

これで全日本への出場資格が得られたので、今度は試合度胸をつけることに、全日本でのシード権も狙って関東オープンへ遠征した。この大会でも必ず勝つ一念で臨んだ私は、順調に勝ち進み、決勝で昨年の全日本選手権チャンピオンの加茂選手(元テニスマスター)と戦う事になった。連日の暑さで、決勝当日も体力がもつかわりか最大の問題の様に思えた。試合はシングルゲームとなり、5-3で私がリード、第九ゲーム、私がサーブに入ろうとした時、加茂選手が体力の限界を理由にリタイアしたため、最後はあっけなく優勝することが出来た。これで第二目標も突破した。

残暑がまだまだきびしい9月いよいよ全日本選手権を迎えた。私はノーシード、しかも一回戦で第一シードの加茂選手にあたるというドローであった。がんばるしかない。私はすべてに全力を注ぎようと決意をあらたにした。

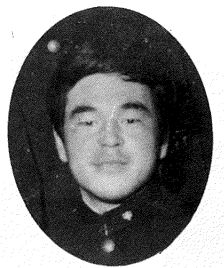
試合は福島県郡山市で行われるため、さっそく友人に電話を入れ、コートの状況を詳しく聞いた。郡山のホテルのチェックインで私は、「8泊します」と言っている自分自身に変な驚きを感じた。必ず勝つ、その時あらためて闘志が湧いてくるのが自分でよくわかった。

いよいよ当日、「加茂選手棄権」の報、張っていた緊張の糸が切れるのを感じた。しかし、強敵はまだ多く、再度気を引き締める。二回戦以降、順調に勝ち進み、準決勝、十年振りでの石黒選手(元テニスマスター)と対戦する事になった。

第一セット6-3でとり、第二セット6-4で石黒選手。試合はファイナルセットにもつれこんだ。ゲーム3-4でリード

1部復帰をめざして

清水春海 先輩
(昭和48年卒)



吉田マネジャーより、昭和47年のリーグ戦で2部から1部へ復帰した時の様子を書いて欲しいとの依頼がありましたので、大先輩多い中、甚だ僣越ではあります。懐かしさで思い出し筆をとってみました。

私は昭和44年入学、入部致しました。ところが憧れの名門立大庭球部のコートは、志木のコートに移って2年目のことと、まわりには木もなく吹きさらしで、正直言ってテニスをやる環境とは、とても思えませんでした。その中で、前年度2部落ちしていた立教は、朝倉主将を中心に1部復帰をめざし、気迫にあふれた熱の入った練習を続けていました。しかし、2部のリーグ戦で残念ながら青学に敗れ、2部優勝も叶わず入部1週間、桜と共に私の髪も散り坊主頭と相成りました。

翌45年は、全日本ランキングプレーヤーの宮下主将を筆頭に、よくまとまり、日大、東大、青学を破り2部優勝を飾りました。1部の壁は厚く、立教有利との下馬評も虚しく、明大との入替戦は、3-6と敗れてしまいました。しかし、この年にはインターハイ団体準優勝の立教高から、鈴木、八木沢、浅見が、静岡高からインターハイベスト4の鈴木徹が入部してきました。

翌46年も、全日本プレーヤー安達主将を中心に2部では優勝したのですが、早大との入替戦は、2-7と敗れ2年連続して入替戦で無念の涙をのみました。しかし、この2度の入替戦で、1部昇格の困難さと同時に手ごたえも感じ、これが翌年の昇格への大きな下地になったと思えます。しかも、この年も立教高から、インターハイ優勝の中島

団体準優勝の大里、梅田が、広島修道高から新宅らが入部し、1、2年の層がぐっと厚みを増したのです。

この年は、前述の下級生達が順調に育ちつつあり、卒業時までの資格で言えば、卒業選手権で田辺、本村の両テニスマスターを破りオールジャパンとなった鈴木、東北選手権を制してオールジャパン入りした八木沢、新進戦ベスト4とマネジャーを勤めながら単複インカレの浅見、1年生の時からインカレの大里、インカレの梅田と揃い、アメリカ留学中の中島は不在でも、1年生に立教高からインターハイベスト4の小井土が入部という状況で、1部昇格への機運は非常に盛り上がりました。私もダブルスは多少自信もあり、3、4年生時インカレに出場しましたが、シングルスでも出たのは、諸先輩の厳しい指導と強い後輩達の激励のお陰と感謝しています。

このように戦力としては、全日本ランキングプレーヤーの宮下先輩の様な超エースは不在でしたが、上から下までツブ揃いでありました。が、何分にも、2、3年生主体であり、ここ2年の入替戦でも1部校の意地を見せつけられており楽観視はできませんでした。しかも、前年秋の定期戦では、京都へ遠征した同志社戦こそ、9-0と完勝しましたが、入替戦の相手と予想された明大には、マッチポイントを握りながら落としたゲームがあったりで、4-5で敗れるという状況でした。2部の相手校も、青学、日大とは資格的に大差なく、一歩落ちる成蹊にも前年度インカレ優勝プレーヤーがいたり、しかも3戦共、相手コートでのゲームでもあり、かつして侮れるとは考えていませんでした。

しかし、メンバーが十分に力を出し総力を結集すれば必ずや2部優勝、1部昇格は成就する

と信じ、又、今年上がっておかなければ、来年の王座獲得はないとばかり練習に邁進しておりました。当時はレギュラーでなくても関東学生程度の力を持つていたので、主将の指示による練習より、各個人の創意工夫にまかせるフリー練習を多く取り入れ、お互いに研究しあい、皆で皆をこなしつつあった練習を主として行ないました。

又、リーグ戦を迎えるにあたり岩井先生の後任として、伊藤先生に庭球部部長就任をお願いにあがり、ご快諾いただき、部としての体制も整いリーグ戦へ突入しました。

第1週は、対日大でした。4月1日、我々は桜が咲きほころ日大コートへ入りこみまわりました。立教、日大緊張した様子の中で、複No.3のゲームが始まりました。立教は、鈴木・浅見組。立教ベアは立ち上がりこそやや固かったのですが、終始リードを守り、6-4、6-1、6-2のストリートで快勝し、氣勢が上がり、続くNo.2大里・小井土組も6-1、2、1-6、6-4、6-1、No.1清水・八木沢組も6-4、2-6、6-4、7-5で勝ち、初日複3-0とリードしました。翌日の単も前日の勢いを保ち、No.6梅田が、6-1、6-3、7-5、No.5浅見が、6-1、6-1、6-2とそれぞれストリートで勝ちこの時点で立教の勝利が決まりました。続く、No.4清水は、2-6、5-7、6-4、8-6、6-1、No.3大里、6-2、6-1、6-2、No.2鈴木、3-6、3-6、7-5、6-3、6-3、No.1八木沢、6-4、6-3、6-4とそれぞれ勝って、単6-0、計9-0の完勝でした。

社会の秩序を守り
より高い文化創造の担い手として

第一法規出版株式会社
東京都港区南青山2丁目11番17号
電話 (03) 404-2251 (大代表)

フォークリフト (ガソリン、ディーゼル、バッテリー)

ショベルローダー トレーニングトラクター

東京トヨタフォークリフト株式会社
本社 東京都品川区東品川3丁目7番6号
電話 03(472)5211(代表)

ファミリアなテニスクラブ

名古屋MIDテニスクラブ
〒450 名古屋市中村区名駅南2丁目7番71号
TEL (052) 582-8623
支配人 小西一三 (昭37卒)

1、No.1が6-3、5-7、6-3、6-3と競りながらも、立教の気迫が優り、3-0とリードしました。翌日の単は、浅見をNo.6に下げ、6-4、6-0、6-2で勝ち、2部優勝に手をかけました。しかし、ここから青学の反撃にあい、No.4 No.5がファイナルにもつれ込みました。結局、No.4清水は、7-5、7-5、5-7、2-6、0-6で敗れましたが、No.5小井土が、13-11、6-2、4-6、2-6、6-4で勝ち、3年連続しての2部優勝となりました。この後、No.3大里、No.2鈴木、No.1八木沢共に勝ち、計8-1というスコアでした。

終わってみれば、9-0、8-1、8-1ですが、フルセットマッチが8つもあり、スコアほどの楽勝ではありませんでした。ただ、複No.3鈴木・浅見組、No.2大里・小井土組、単No.5、6の浅見、梅田、小井土らが、競りながらも、上位陣のポイントをあてにせず全勝してくれたので、単No.4、No.3がコートに入る時は勝負が決まっているという状況ではありましたが、加えて単No.3大里、No.1、2に交互にでた、鈴木、八木沢も目標を人替戦におき、勝利が決つても手を抜かず全勝し、鈴木などは、日大戦、成蹊戦ともに、2セットダウンから3セット連取しての逆転勝ちと、勝利への執念を示してくれました。このように、皆がそれぞれの立場で勝利をめざし全力をつくした結果がこの大勝につながったのだと思います。

いよいよ、予想通り明大との入替戦となりました。昨年の定期戦、過去2年の入替戦の反省から複を絶対リードとの戦略をたて、ペアを組み替え、No.2、No.3必勝の体制とし、明大八幡山コートへのりこみました。

複No.3は、浅見・八木沢組。ところが明大は、No.3必勝でくると思われたペアがNo.2にまわった為、7-5、6-1、6-1、と快勝したのですが、逆にNo.2大里・小井土組が、4-6、3-6、2-6、と完敗しイヤなムードとなりました。No.1は

清水・鈴木組。明大ペア有利の下馬評でしたが、7-5、8-6、9-7、と3セット共ロンゲームの末ストレートで勝ち初日を2-1とリードしました。このゲームは、私の拙いテニス歴の中で最も印象に残り、最も誇りに思える会心のゲームで、パートナーの鈴木、ベンチコーチに入っていた浅見、八木沢、外で応援してくれていた部員、部長先生、皆が本場に一体となつた最高のゲームだったと自負しています。ゲーム終了後、浅見から、清水さんがあんなに集中していたのは見たことない。と言われたのを今でも覚えてい

初日をリードし、1部昇格濃厚となり、4月23日の八幡山コートには20名ちかくのOB諸先輩が駆けつけて下さいました。しかし、No.6梅田、No.5浅見が共に第1セットを落とす不安なスタートでした。その後、梅田は、明大牧野を逆転し、3-6、6-3、6-3、6-2でとり立教3-1とリード。浅見も健闘しましたが、この年インカレベスト8の明大森本も前日復スレット勝ちの勢いで粘り、結局、4-6、9-7、5-7、6-2、4-6と4時間を超す熱戦の末惜敗。立教3-2。しかし、No.4に抜擢された小井土が、前日復で破れた明大竹山に對し、6-2、8-6、6-4とストレート勝ちし、1部昇格に王手をかけました。続くNo.3大里も完璧なプレイぶりであり、この不振をはねかえし、6-2、6-3、6-1と明大土井を一蹴し、No.2八木沢、No.1鈴木のゲームを待たずして4年ぶりの1部昇格が実現しました。この入替戦単複共勝つたのは鈴木だけという。まさに全部員一丸となつての総力戦でした。

終わりがよければすべてよし、と言いますが、坊主で始まり歓喜で終わった4年間それぞれに思い出深いものがあります。それにしても、私が主将の時に1部昇格を達成してくれた後輩達に感謝すると共に、あと一歩で武運拙なく成就はしなかったものの、立教は1部校なんだ。今は仮の姿だ。と誇りを失わず我々後輩を叱咤激励し、精神的にも技術的にも引っぱってくれた諸先輩、甲子園予選でホームランを打ったことのあるもののテニスを始めたのは大学からの内原君、多分初代の女子マネと思われれる篠崎さんの同輩にも本心に心から感謝した次第でありました。

昨今のテニスブームとやらで現役諸君は、我々の頃とは比べようにならないくらい環境のことが思っています。

しかし、体育会庭球部の看板を掲げる以上、大学王座獲得が最終目的であるし、個人としては、インカレ優勝が目標のほうです。この二つは、今の君達、そう学生時代の4年間にしかチャンスはないのです。私の一、二年下の連中が考えていた様に、あの小西先輩、倉光先輩が在学中の時、又、関東学生のベスト4のうち3つを石川先輩、有馬先輩、三浦先輩が占めた時でさえ大学王座は取れなかった。オレ達が取るうじゃないか。と良い意味での野望を持って欲しいと思います。(結果的には王座をとった早稲田に勝ちなが、慶応に敗れて成就はしなかったが。)私は名古屋に引つ込んでしまいたい現役諸君の応援に行くこともままなりません。心より諸君の健闘を祈るし、現役諸君も1部復帰、大学王座獲得をめざして頑張ってくださいと思います。たとえ、現役諸君が成し遂げられなかったとしても、その気持ちを君達が失なわず後輩達に伝えることができたならば必ずや近い将来、立教も大学王座につくことができると思っています。入試制度、環境等、制約も多いたとは思いますが、永年のライバルである明大に大学王座を先にとられた事を現役諸君も、我々OBも本心に悔しいと感じてははいけません。

最後に、OB諸君、伊藤部長先生、立教学院の益々の御発展、御健勝を心より祈り、現役諸君の健闘を願う筆を置かせていただきます。

卒業後一年 藤井孝信 先輩 (昭和59年卒)

「一部復帰」を合言葉に、その夢を自分達の手では、二度と果たせぬまま、社会人としての第一歩を踏み入れてしまった今ですが、やはり、学生時代に一つの目標に向って、一生懸命練習をした日々が、忘れられない。現在は、週に二回のテニスに待ち遠しい毎日だが、今までにやって来た基本練習をする時間にはほとんどなく、ゲーム中心になりがちです。その中でも、やはりここ一発という時のショットは、毎日、毎日の基本練習の積み重ねの中からは生まれるというのを、改めて、痛感している。私は、練習があまり好きでな方ではなかった。あの、時も少しやっていたら、というように少し思いあたる。現役の諸君には、そのような思いをして欲しい。私達、卒業してしまつた者が、もう一度、リーグ戦に出たいと思つたところ、かなわぬ夢であるのだから、スポーツは、スポーツマン精神が大事である。また、結果が出るまでの過程が大事である。しかし、それはあくまでも、結果が出てからの話だと思つて。とにかく、勝たなければ認められない世界である。「精一杯やつたから、いいじゃないか。」と泣くよりも、勝つて泣く方がどれだけ嬉しいかを、実際にみんで味わってほしいと思つた。

最後ですが、リーグ戦は団体戦であるが、テニスだけを見れば、個人スポーツである。一人一人が勝つことが、チームの為になる。誰が勝つた負けに關係なく、自分の役割を果たさなければ、チームは負けしてしまう。どんな状況であれ、自分の役割を果たせるように、がんばってほしい。私も、力及ばずながら、みなさんの力になりたいと思つています。現役諸君の相手になれるよう、時間を見つけて、練習して、グラウンドの方へ足を運びたいと思つています。

立教学院合同 練習会 西村博文

恒例となつた小学校から大学までの体育会庭球部の練習会が十一月二十三日に中学校コートと神学院コートで行なわれた。立教一〇周年記念バザールで折よく来られた西村学院長の激励の言葉をいただき、練習会は始まった。午前中は、中学校の生徒が入り混つてのグループによる練習が行なわれ、午後からは初の試みとして小学生対中学生、中学生対高校生、高校生対大学生という対戦が組まれた。さすがに青春をテニスに賭けている体育会の若者達のプレーには真剣さと迫力があり「立教健児ここにあり」が感じられた。若手OBによるダブルス、OB部長先生のゲームも組まれ、親睦という意味でも有意義な一日でありました。これからはもっと回数を増やすことと共に学院としてのジュニアチームを結成し、その中からテニスを結成した選手が立教コートから育っていくことを期待したい。今や学院体育会テニスに連なる部長、OB、現役全員の協力が必要な時に来ている。

終りに当日御指導いただいた方々の名前、(敬称略)を列記しお礼を申し上げます。

伊藤(大学部長)湯川(高校部長)方波見(中学副部長)宮内河、井田、上野、中島、鷲田、秋元、原田、高橋、井上、藤井 大学四年生部員。

我が庭球部では、毎年二十キロマラソンというものを十二月に実施していたが、今年はこのを変更し、テニス以外でも明治大学との結びつきを強めようという主旨のもと、明治が毎年行っている調布八幡山マラソンに参加した。

初めての参加であり、スタートが早朝六時ということも重なり、結果は度外にして、完走を目指した我々であったが、予想外の結果は良く、二位に主将大岡が入ったのを筆頭に、十位以内に5人も入るという好成绩であった。

また、その他の部員もそれぞれ頑張り、全員が完走した。我々としては、このような行事を通じて、立教と明治のテニス部員が、親睦を深め、それが両庭球部の発展につながって行ければと思つている。

一年 上杉 佐

僕達は、まだ真暗な朝六時に調布駅を出発した。外は人影もなく静かで、はく息も真白で、外に立っているのがつらいほどの寒さだった。

そして、今か今かと待っているうちに六時になり、皆は一斉にスタートした。誰もが一位を目指しダッシュしていた。自分も始めはダッシュしてみたが、こんなペースでは、とても八キロなんて無理だと思い、スピードを落した。私は皆に比べて走力が劣っていたので、始めのうちには後ろに多数の人がいたけれど、走って行くうちに、だんだん後ろの人が少なくなって来た。そして、前方も人影が少なくなると、自分の吐く息の音だけが聞こえる程になった。「このままではいけない。」と思ひ、ペースを徐々に上げて行き、三、四人を抜いた。辺りはだんだん明るくなり、あと何キロでゴールか、と時計を気にしたりした。さすがに足が重くなり、回りの風景が前に見えたことがあるような感じになって来た。「あと少しだ。」だんだんとペースを上げ皆も私に負けなくらいの最後のダッシュをかけて来た。明治の合宿所が見え、最後の力をふりしぼり、ゴールを目指して猛ダッシュをした。

走る前は、「八キロなんて長くて、人の何倍も遅いだろう。」と思つたが、この時期は練習で毎日ランニングがあり、その御蔭で、自分の思つていた程きつくなかった。

これからは、ランニングを今まで以上にがんばりたいと思う。

LPガス・石油・煉炭豆炭・石炭・住宅機器・自動車
総合燃料商社

橋本産業株式会社
マルハ産業株式会社

取締役社長 橋本 内匠
取締役副社長 橋本 宏

東多摩三菱自動車販売(株)

取締役社長 橋本 宏

38年度
自己資本、100億 売上 1,400億 従業員 800名
東京都台東区駒形1丁目6番6号 Tel (843) 3241

特許小宮山式
スプリンクラー装置

株式会社 日東コンクリート工業所

代表取締役社長 三町 正治 (昭和30年卒)

東京営業所 東京都豊島区西池袋3-30-6磯野ビル
電話 03(971)1161(代表)

特許小宮山式：ドレンチャージャー装置
特許CEC式：室内自動消火栓
：屋外自動不凍消火栓
：CO2ハロン消火装置
：泡消火装置

防火設備・設計・製作・施工
建設工業社
東京・渋谷区渋谷3丁目27番13号 Ⅷ(409)9511(代)

第四回OB東西対抗戦

△はじめに▽

今年の東西対抗OB戦が、10月7日(日)に京都サザンテニスクラブで行われると聞いたのは、おそらく六月銀座・交詢社でのOB総会の時だった様に思えます。(注2)

上野城太郎先輩より「おいユキノとかく楽しいから必ず来いヨ」とお誘いを頂き、「ハイわかりました。必ず行きます」と返答したものの「はて？東西対抗って一体どんな雰囲気なのかなあ？」「僕みたいな若いのが行ってもいいのかなあ？楽しいのかなあ？」etc etc...と内心あれこれ思いを巡らし、興味半分不安半分だったのが、その時の心境でした。もっとも結果的には「百聞は一見にしかず」とは良く言ったもので、まったくもって愉快な二日間であったのですが...

△大会に備える▽

OBとなったからは、現役時代にも増してロクな練習らしい練習もせず、ただひたすら天災的ショットに期待して試合に臨む質なのですが、「東西対抗」というなんとも重々しい重厚な言葉の響きに眩惑されてか、今回は何と三日間も女房(注3)を相手に練習を積み重ねた私でした。

△出発の朝▽

準備万端に練習もした。気合も充分。ジョギングはしなかったけど...腕立て伏せもやっていたいなあ？腹筋もやっていたいなあ？いい。そんな事はどうでもいい。出来る努力は全てしたんだ。「やるぞー」「いっつと違う異常な気配を察知したのか女房は怪訝な顔付きで「いったらっしゃい」「ウン」と頷く私。緊張感がぐっと高まった。所で女房が一言。「難しい顔しちゃって。たかが遊びなんですよ。頑張るってネエー」「エッ？この軽さ。ムードが壊れ...」

△集合▽

東京駅に同行の上野先輩、後輩の坂井君、主務の吉田君が集まると、ぐっと雰囲気も盛り上

昭和五十二年卒 中島幸彦

り、現役時代の「遠征」の気分が浸ってきたのですから体育会の習慣とは恐ろしいもんだなど改めて痛感した次第です。(注4)

新幹線の席に着くなり城さんの「おいノ行くぞ」の声。ミニティンクかな？城さんも気合が入ってるなと思いつつ「ハイノ」と返事。もう気分は完全に「あ、体育会」です。

△ミーティング▽

ビュッフェの入口でOBの、そののを待つこと10数分。車内放送が営業開始を告げると同時に一番奥の席を確保し、幾分皆緊張した顔で城さんの顔を見ると、城さんニヤッと笑って「スミマセンノ取り合えずビール4本とウイスキー10本ネノお前達つまみは？」「エー？」狐につままれた顔もほんの一瞬で後は大爆笑。いやいや飲んだこと結局京都駅に着くまで二時間余りずつとビュッフェで大宴会でした。主務の吉田君は京都駅停車5分前に食べた。ウイスキーがけ(注5)がいたく気に入った様子(?)でしたが、それを食べる姿は本当にも可愛そうの一言で。本人もとっても苦しそうでしたが、これに耐えてこそ、体育会の男と、とんでもない思い違いに気がせず頑張ったその根性に「頼もしさ」を感じた我々OB3人でした。

△京都・練習会場▽

着きました。坂井君の声に起こされ眼を開けるとテニスクラブ。田中OB会長、藤沢先輩の顔を見た途端、酔いもさつと冷め、チワワノ(注6)と挨拶。和やかな中にもチョッと緊張感の漂う雰囲気の中で各々調整に汗を流す試合前日の練習でした。

△前夜祭▽

遠征の楽しみの一つがOBとの宴会。現役時代は何となく恐ろしく話も出来なかったOBと何か卒業するとお話をさせて頂ける様になって、急に自分も偉くなったような気分になるので、すからこれまた不思議なものです。しかし、行動パターンは現

役・OBも変わらないのか、焼鳥屋↓雀荘↓飲み屋」と行く店のレベルは上っているものの、基本的パターンに何ら変化がなく、思わず皆「卒業しても変わんネエノ」と笑い出してしまふ京都の夜でした。

△決戦ノ試合開始▽

上野先輩の司会で各自が自己紹介し、東軍と西軍に別れるとそれぞれでひそひそとミーティング。ペアリングと対戦順を決めるわけでありまして、リーグ戦並です。そしてメンバー表交換。私は「元氣(?)が一番ありそうだ」という極めて単純な理由で小西先輩と組んでNo.1出場。こころに当日の雰囲気が出てるわけでお察し下さい。

この順で試合は進められました。

第一試合/東6-1西

結果的にはこの試合が今年の東西対抗戦の勝敗を決めたと思われる程の大熱戦。スコアは簡単な様ですが、全ゲームがジュースの連続でどちらが勝っても不思議でない素晴らしい好ゲームでした。東軍意気揚々ノ

第二試合/東6-5西

第一試合の大先輩の熱戦に刺激されたか、これまた大接戦で5-5で迎えた最終ゲーム。OB会理事長内河先輩の強烈なニラミに中沢後輩屈し、東軍際どい勝利。

第三試合/東6-1西

西軍優勢と見られ、試合の様子も西軍が押しきりなものですが、地味にポイントを重ねた東軍がコンビよく快勝。伊藤部長の豊富な練習に裏打ちされた巧妙なプレイが光っていた様でした。東軍早くもリーチノ

第四試合/東1-6西

もう後がない西軍(注7)はポイントゲッターエース格の登場。この雰囲気には滅法強い西軍ペアに我が東軍ペアはただ身の不軍を嘆き悲しむばかりで和やかな内に試合は終了しました。西軍意気揚々ノ東軍お疲れさまでした。

第五試合/東6-3西

東軍としては一番若いペアであり、危ぶまれたのですが、それを体力で補い東軍予期せぬ勝利に拍手喝采。体育会風勝利の典型みたいな試合でした。

この時点で東軍の勝利決定ノ第六試合/東6-1西

結果が決まってしまう西軍ペアは気が抜けてしまった様子。これ幸いとばかりに小西先輩一人に重点的に頑張ってもらい勝たせて頂きました。いつもの通り声を出しコート中をしゃべり廻っているといつの間にか試合は終わっているみたいでして...

まったくお前は(注8)と、言ってニコニコ顔で握手をしてくれた小西先輩の顔が印象的でした。

△戦い終って日が暮れて▽

舞台を京都阪急ホテルに移し行われた親睦パーティーは、終始笑いの絶えない明るく賑やかなものでした。上野先輩の軽妙な司会が始まり、座が和んだ所で司会が私にバトンタッチ。ひどくなったのはここからで、後にはもう騒がしいのを通り越してうるさくなるばかりで、カップ(注9)になみなみと入ったビールの一気飲み(全員参加ノ)(注10)誰かが一言言えば意味不明の万才三唱(全員参加ノ)ともう収拾のつかない有様で、私も心おきなく思いついて騒がせて頂きました。来年もここで宴会させてもらえるのかなあと心配したのは私だけでしょうか。

△解散▽

名残も尽きぬままパーティーも残り解散となりましたが何となくそのまま帰りたい気が分かったのは私だけではない気がたらく、名古屋組は帰路名古屋へ帰って又飲み直したという話であり、又私も上野先輩共々帰京後六本木へ足を向けた次第

です。

△東西対抗OB戦を終って▽

私自身にとっては表題の如く東西対抗戦でありましたが、もちろん全てが「ハチャメチャ(注1)であった訳ではなく、試合に備え体調の管理に気を配っていた先輩、真剣な眼差しで試合に臨んでいた先輩、右手のケガでプレイは出来なかったもののコートサイドで終始応援下さった田中OB会長、高橋達(昭14)先輩も熱心に試合を観戦し、パーティーにも参加頂きました。試合当日には同志社大学庭球部OB会長であられる田中良和氏がわざわざお見えになり、同志社戦の延長として是非、OB対抗戦」をやりましょうとの提案を持って来られたりと各人に各人の東西対抗戦があった訳です。

夕暮れ迫るまで思い思いの人とペアを組みテニスに熱中する先輩諸氏のどの顔からも心から笑顔が溢れあふれています。老いも若きも全てを忘れ騒ぎ放題の大宴会。そんな場に居合わせることの出来た私の気持ちは、何とも言えぬ温かく豊かな幸福感に包まれてゆきました。これだけの人の心を豊かにしかも幸せにさせてくれる機会が、東西対抗OB戦」であったのかも知れません。

「楽しいから必ず来いよノ」城さんの言葉が思い出され今解ったような気がしています。今度、先輩に会ったらこんな風に言おうと思っています。「先輩ノ今度の東西対抗戦一緒に行きましようヨノ絶対楽しいですよノ」。もちろん後輩にも△後記▽

全く、実に楽しい二日間でありました。が、全て、お陰さまで、という前置きの言葉が多くのが実際でありました。最後になってしまいました。運営に大変な御尽力下さいました諸先輩、好き放題させて頂いたにも関わらず怒りもせず笑って許して下さいました先輩諸氏、あきれ果てながらも先輩だから仕方ないと思っただけでくれた後輩達、さんざん迷惑をかけた主務の吉田君、皆々様に厚く御礼申し上げます。

昭和六十年二月

げますと共に、心からの感謝の気持ちをお伝えし、ペンを置かせて頂きました。本場にありがとうございました。

立教大学庭球部に栄光あれノ

(注2) 上野城太郎氏が経営に参画しているテニスクラブで、今回仕事の関係上試合には出場しませんが、コーチとして働いています。

(注3) 週一回テニスクラブに通ってましてつい最近上からサーブが出来るようになりました。ほとんど入らないのですが、明るい女房です。

(注4) 私が敬愛する先輩の一人である上野城太郎先輩の愛称。厚意に甘えて普段こう言わせて頂いています。

(注5) 皿に盛った白飯の上を言葉通りたっぷりウイスキーをかけたご飯の事。つまみの一種ですが、気が持悪くなること受合います。

(注6) コンニチワの略語で体育会での言葉を知らない人はモグリです。

(注7) さすが両先輩とも全盛時代を支えて来た選手らしく、試合後シングルスをしていました。現役選手諸君に見せたい一コマでした。

(注8) 私の現役時代から今まで一貫して小西先輩が私に対してよく使う言葉でして、この後はいつも言葉が続きます。

(注9) 伊藤部長が、東西対抗OB戦」の為に特別寄贈してくれた立派なカップです。ちなみにカップの中には、5本以上のビールが入る程です。

(注10) 来年はもっと盛大に日本航空勤務の倉光純先輩が遠方から来るOBに半額航空券を用意しようとか、協賛券の積立先先輩からは、「ワインと焼酎」ならいくらでも持って来ますとか、それはもう大変な勢いでした。これを機にOB会を設立しようとの声も出ました。

上野運輸グループ主要会社

創業115年

株式会社上野運輸商会	三光石油株式会社	オクサリス・ SHIPPING Inc
東邦海運株式会社	株式会社ワイ・エス・ケー	ウエノ・ストルト・タンカーズ Inc
上野ケミカル運輸株式会社	上野興産株式会社	株式会社ラック・コーポレーション
上野輸送株式会社	伊勢湾防災株式会社	上野ビルメンテナンス株式会社
上野石油倉庫輸送株式会社	上野マリン・サービス株式会社	上野ホームサービス株式会社
旭日通産株式会社	中部マリン・サービス株式会社	京都サザンテニスクラブ
旭菱石油株式会社	西部マリン・サービス株式会社	

池袋店

豊島区池袋1-1-4(洋菓子のタカセ6F)
TEL 989-0401 ●AM10:00~PM7:30(日・祭)
PM7:00まで ●月曜日定休(祝祭日は営業)

日本最大の
テニス・バドミントン

ウイザー・ラケットショップ

昭和五十九年度

関東大学テニスリーグ結果

三部優勝 二部昇格

第一戦

四月二日

於 千葉大コート

本学9 (D310) 0 千葉大 (S610)

昭和五十九年度関東大学テニスリーグ男子第三部は、この対千葉大戦でその幕を上げた。第一戦ということで、メンバーはやや緊張ぎみであったが、相手が実力的に劣る千葉大であったことも幸いして、比較的楽に勝った。千葉大は資格者がいないため、本学との実力差ははっきりしていた。そのため各人が実力を出し切り、9-0というポイント差となった。昨年のリーグ戦においてもそうであったように、第一戦というものはその年のリーグ戦を左右する大事な一戦であり、その意味でこの勝利は、本学にとって大変大きな意味を持った。

第二戦

四月四日

於 立教コート

本学9 (D310) 0 一橋大 (S610)

この一橋戦は前半の山とみられていた。一橋大学は関東学生シングルス一名、ダブルス一組を持ち、三部の中では実力があると言われており、事実本学は秋の対抗戦では敗れていた。しかし予想に反し、結果は9-0と数字的には楽勝であった。しかし実際はどの試合も接戦であり、それぞれ試合において本学の方が気力・体力で少しづつ上まわっていたに過ぎない。ダブルスにおいては山田・川本組が接戦をものにし、三〇〇というスコアとなった。これが一橋大の焦りを誘い、逆に本学は「実力を出せば勝てる。」という確信を得て、それが余裕

第三戦

四月七日

於 成蹊大コート

本学6 (D211) 3 成蹊大 (S412)

第一戦・第二戦と共に9-0で相手を圧倒して来た本学としては、この成蹊戦も9-0で乗り切り、次の学習院大戦に臨みたいところであった。しかし成蹊大もそうはさせじとジャパン資格の金井を中心とした布陣で臨んで来た。ダブルスにおいて藤原・大岡組が相手のNo.1ペアの金井・西田組に破れ、本学はこのリーグ戦における初の一敗を喫した。ここで何となくいやなムードになったが、このムードを変えたのが気合の男原であった。柴原は成蹊の西田と壮絶な打ち合いを演じた。そして柴原がこの試合で打ち勝ったことにより、本学は勝ちを決め、また、一・二戦の時の勢いを取り戻した。この成蹊戦では、No.6からNo.3までの柴原・沢井・笠原などの活躍により、上の三人の結果を待たずに勝ちを決めてしまい、ここにおいても立教の層の厚さを見せつけたのであった。

第四戦

四月十日

於 立教コート

本学5 (D112) 4 学習院大 (S412)

遂に、三部リーグの天王山、对学习院戦がやって来た。どうしても三部の一位にならなければならない本学としては、負け

られない一戦であった。そして天王山の名にふさわしく、この一戦は、二日に渡る大熱戦となった。

まず、ダブルスにおいて、本学は初めてリードを許した。ダブルスでのリードが絶対条件であった本学としては、苦しいスタートとなった。しかし、ともかくも、ダブルスのNo.3である川本・山田組が勝ち、ダブルス0-3を免れたところなどは、本年度リーグ戦における本学の粘りを示していた。

入れ替え戦

四月二十二日

於 筑波大コート

本学7 (D310) 2 筑波大 (S412)

関東大学三部リーグを全勝で乗り切った本学は、四月二十一日、筑波を目指して出発した。部員の顔は、みな明るく、明日の入れ替え戦に向けて気合がみなぎっていた。筑波に到着し、その夜は柴原(二年)の伯父の店で御馳走になった。部員一同このもてなしに感激し、新に明日の勝利を誓い合うのであった。

ダブルスでは山田・笠原は勝ったものの、沢井が負け、残り三つを全部落とすと負けしてしまうという状況になった。しかし、ここでも柴原が持ち前の明るさと根性で勝ちをもぎとり、辛くも逃げきった。また、対東農戦で川本はファイナルタイブレークで破れたが、本学としては、タイブレークを落すのは今リーグ戦でこれが初めてであった。これは、今リーグ戦での本学の勝負強さを示していると言えよう。

リーグ戦を振り返って

藤原誠之

昨年三部落ちしてから一年、部員全員が雪辱を期してリーグ戦にのぞんだ。今年資格者七人という強力なメンバーであり部員も全員燃えていた。しかし大雪の為に2月はほとんど練習ができず、また三部も近年にならぬ激戦区だった為、予断は許されない所であった。

さ、そして気合を忘れずにいれば、本学は必ずや一部に復帰するであろうし、また、そうしなければならぬのである。

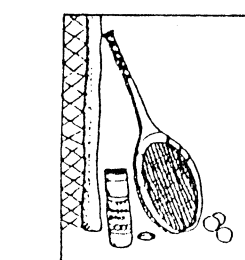
さて、第一戦、昨年三部入りした千葉大戦は全員が実力を発揮し、九-〇でかく一蹴した。そして第二戦、対抗戦で負けている一橋大との対戦となる。対抗戦では負けているものの、第四戦目の強豪学習院がひかえてくるだけに、まげられない一戦である。まずダブルス山田・川本組の勝利で波に乗り、三-〇とリード、立教チームはこれで堅さがとれ、逆に一橋はプレッシャーに押し潰された形となり、続くシングルスも六-〇、計九-〇の圧倒的勝利となった。この一勝で二部との入れ替えが確定的となる大事な一勝であった。第三戦は、ジャパン資格の金井を擁する成蹊大戦。金井がらみのポイントをとったものの一年柴原の頑張り勝利を決め、計六-三で勝利。そして天王山の学習院大戦をむかえることとなる。

さて、第三戦、これに勝てば入れ替えはほぼ勝てる相手と対戦できるが、負ければ互格の相手と戦わなくてはならなくなる。まさに今年の三部リーグの関ヶ原とも言える一戦である。まずダブルス川本・山田組が永山・原田組を破り先勝するものの、藤原・大岡組が相手のNo.1ダブルス川原・登山にストレート負けし、さらに柴原・渡井組も予想外の敗退を喫し、今リーグ初めてダブルス一-二とリードを許した。しかしここで立教チームから驚異の粘りを見せ、沢井が相手のエース永山をフルセットで破る大熱戦。これで勝負の流れは我がチームに変わり、最後は大岡が敵の主将田村を破り辛くも五-四で勝利を決めた。

三部の最終戦の東農戦は、相手の粘りにあつて多少苦しんだものの六-三で勝利を飾り、三部優勝を決定した。そして入れ替え戦の相手は筑波大に決定。全員燃えて燃えて筑波に乗り込んだ。筑波戦は、ダブルスをまじらず三-〇でリード、続くシングルスも、笠原が勝ち四勝目、そして最後には沢井が敵の主将榛葉にフルセット勝ち、念願の二部復帰を決めた。全員が万才をしながらコートの中に入っていく。誰の目も潤んでいた。私も万才をしながら、この長いよう短かかった一年を思い返していた。主将としての責任をこれで果たせたという気持と、我々をささえてくれたOBの皆様やよく戦った選手達、そして誰よりも一言も文句を言わず影の力となつて支えてくれた部員達に「ありがとうございました。」と固い握手をかわしたい気持でいっぱいでした。

本間に今年一年は、ついでにたと思ふし、そのつきを生かしたの、みんなの団結あるのみであったと思つております。そして今後も、我々の代以上に、後輩諸君がより一層すぐれた、明るい立教チームを育てあげてくれることを望みます。

最後になりましたが、よく面倒を見て下さったOBの先輩方本間にどうもありがとうございました。そしてこれから後輩達が頑張ってくれると思いますので、より一層の御指導・御鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。



スポーツ家族のスポーツひろば

ボウリング 100レーン **ハタ** テニス インドア6面コート

ハタスポーツプラザ

スカッシュ・ゲートボール・ビリヤード・卓球・オートテニス・プール・サウナ・レストラン・ゲームセンター

〒173 板橋区南町22番地

地下鉄有楽町線要町駅下車徒歩7分 ☎(955)2151

不動産デベロPMENT

中島総業株式会社

常務取締役 中島 幸彦

昭和五十九年度 戦績報告

△春期関東学生 テニス選手権大会▽

☆本選 二回戦 6-3

○藤原 4-6 鈴木インカレ (四年) 6-3 (法大)資格確保

三回戦 藤原 4-6 河合 (四年) 5-7 (明大) ○

△全日本学生 テニス選手権大会▽

藤原 6-4 本官 ○ 1-6 (明治)

△夏期関東学生 テニス選手権大会▽

予選決勝 ダブルス 藤原 (四年) 6-1 関根関東学生

川本 6-1 堀川資格獲得 (四年) (東大)

大岡 (三年) 6-0 小野関東学生

山田 6-3 市村資格獲得 (三年) (日大)

柴原 6-4 衛藤関東学生 (二年) 4-6 富田資格獲得

高山 6-3 (明大) (一年)

△シングルズ 大岡 (6-2) 中村関東学生

○高山 (6-4) 秋山関東学生

○清 (6-0) 一橋資格獲得 (一年) 6-3 (日大)資格獲得

☆本選 二回戦 大岡 2-6 戸沢

山田 6-3 青山

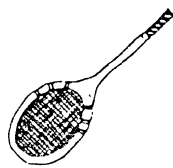
二回戦 大岡 3-6 島田

山田 0-6 村上 ○

△シングルズ 一回戦 藤原 (7-7) 馬場

○大岡 (6-1) 矢津 (慶心)

二回戦 藤原 (7-6) 藤本 (4-7) (日大) 大岡 (3-6) 武鐘 (3-6) (東海) ○



同立定期戦

本学2 (D112) 7同大 (S115)

於 立教コート

昭和五十九年度同立戦は、九月二十四日、立教コートに於て行われた。前回昭和五十七年度同立戦(昨年は中止)において八年ぶりの勝利を治めている本学は、今回も、と意気込んで臨んだ。しかし、関西リーグ男子一部優勝、大学王座出場の同志社には歯が立たず、2-7で破れてしまった。同立戦・明立戦とも、力の差ははつきりしており、この差を縮めることが今後の課題である。

明立定期戦

本学2 (D112) 7明治 (S115)

於 八幡山コート

第四十五回明立定期戦が昭和五十九年十一月二十五日、晴天のもとで行われた。このところ明立戦において勝利を上げていない本学としては、何としても今年に勝利を上げるべく、厳しい練習を積んでこの一戦に臨んだ。明治側は、メンバーを若手主体に変えて来たため、本学にも勝つチャンスは十分にあった。しかし、ダブルスは接戦をものにできず、それが最後まで響いて、またしても破れてしまった。この中であって唯一明るい話題は、無資格である新谷(一年)がインカレ選手に勝ったことである。このように資格的には負けていても、勝負には絶対勝つという気持で試合に臨むことは大変重要であり、今の立教テニス部に一番必要なことなのである。

近年、明治と立教の実力差が開いて行く傾向にあるが、本学としては、明立戦が形骸化するのを防ぐためにも、少しでも明治との差を縮めるよう努力して行かなければならない。そして明立戦において、本学が明治と同等に戦えるようになった時、はじめて一部復帰の可能性が出てくるように思われる。

同立戦戦歴

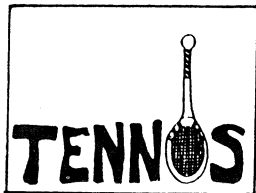
昭和43年が、第38回との記録が残っております。現在判明している記録は左記の通りです。

38	立教
39	立教
40	同志社
41	立教
42	立教
43	立教
44	立教
45	立教
46	立教
47	立教
48	立教
49	同志社
50	立教
51	同志社
52	同志社
53	同志社
54	同志社
55	同志社
56	同志社
57	同志社
58	同志社
59	同志社
60	同志社

明立戦戦歴

昭和21年から開始されたとの記録が残っております。左記の通りです。

21	立教
22	立教
23	立教
24	立教
25	立教
26	立教
27	立教
28	立教
29	立教
30	立教
31	立教
32	立教
33	立教
34	立教
35	立教
36	立教
37	立教
38	立教
39	立教
40	立教
41	立教
42	立教
43	立教
44	立教
45	立教
46	立教
47	立教
48	立教
49	立教
50	立教
51	立教
52	立教
53	立教
54	立教
55	立教
56	立教
57	立教
58	立教
59	立教
60	立教



庭球部史(概略)

大正五年九月 活動開始 (中村健三・松本省吾・佐伯松三郎氏が中心) 大正九年秋 硬式庭球部に転部 大正十年 ダブルス二面・シングルス二面のコートを持つ。昭和四年 関東学生庭球連盟加盟

庭球部コート所在地

大正十年

ダブルス二面・シングルス三面(場所不明)

昭和十八年 現在のタッカーホールの場所 (四面)

昭和二十一年春 現在の立教小学校の場所 (五面)

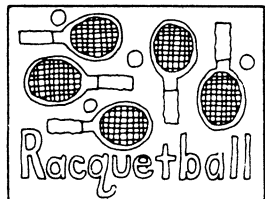
昭和二十三年 現在の理学部の校庭 (四面)

昭和二十六年 板橋区上板橋の城北公園 (五面)

昭和四十四年 富士見市立教総合グラウンド (四面)

現在

庭球部歴代部長 初代 斎藤 茂 二代 河西 太郎 三代 岩井 謙哉 四代 伊藤 謙哉



昭和48年卒主務 内原 康雄 自宅TEL(03) 914-9143

王子珈琲

趣味と珈琲の店

美翔

本店 国電王子駅正面 北区王子1-9-1 TEL(03) 913-1549 支店 秋葉原デパート3Fメガネ売場 千代田区外神田1-17-15 TEL(03) 253-6276 王子本町店 北区王子本町1-1-21 TEL 905-4655 アトリエ美翔 TEL 907-6525

美鈴がおくる世界のコーヒー



Misuzu Coffee Co., Ltd.

コーヒー専門店・喫茶店、開店・営業のご相談は お気軽にどうぞ……各地モデルショップでご指導いたします。

東京本社 東京都千代田区麹町4-5 第6麹町ビル

TSUBAKI 椿 HOUSE

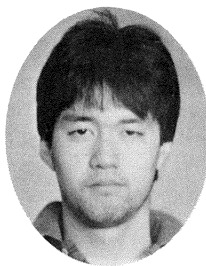
パーティー、配達、御予約 承ります。

3月27日オープン

豊島区长崎4-23-5

☎ 974-1412 (仮)

4年生紹介



藤原誠之 (主将) 経済学部
 コートの外では我々の良き先輩であり、兄貴分であり、又恐怖の雀友ですが、この一年間、二部復帰という目標のため、コートの中では鬼の主将と化した男・藤原さんは、今日も猫背が二股歩きで立教通りを闊歩して、かわいいう後輩見つけては、四角い雀グルで戦う、インカレ選手です。

就職先 東海銀行

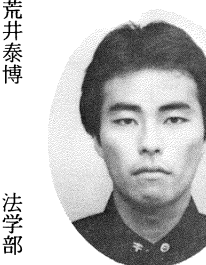


笠原康司 (副将) 法学部
 何につけても実直そのもので、妥協を許さぬその姿勢は、常に我々の良きお手本。ことテニスに関しては、いつでもどこでも努力をおこたらず、副将として二部復帰の底力となってくれました。その人柄の良さで部の人気者だったことは、言うまでもありません。

就職先 中小企業金融公庫



横山浩 (主務) 法学部
 テニス部二部復帰の縁の下の力持ちとなってくれました横山さん。コートの外や、コンパの席では「マ・コンナモンダニー」とばかりに率先して盛り上がりながらも、主務としてのキビシイ目を忘れず、練習での気合のいいかた、ベンチコーチ等、見習うモノがありました。



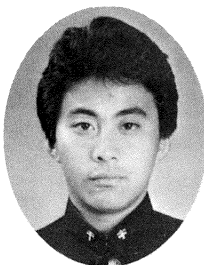
荒井泰博 法学部
 殺風景のどかな志木コートに、白井貴子を響かせて、豪華装備の白いスカイラインがやってくれば荒井さんの登場です。コートの中では気さくで優しい先輩ですが、コートに入ると細かい所に目のとどく、おっかない四年生に早がわりするのです。

就職先



江川裕雅 経済学部
 春夏秋冬季節を問わず、江川さんはいつも日焼けで真っ黒け。センス一割、努力九割の証拠です。試合ではその駿足を生かして、鋭いパスを決めますが、酒の席では、その超ド級の明るい酔いっぷりが関係各位に多大なる損害をあたえます。が、しかし憎めないのです。

就職先 千代田火災



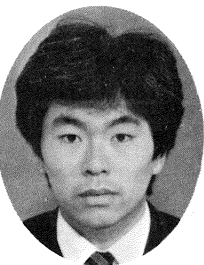
川野隆郎 経済学部
 精悍な顔つきと、真っ黒に日焼けした肌を持ち、口数少なに大きな目でギョロリと睨まれると、さぞかしコワイ先輩と思いきや、コートの中はともかく、コートの外では気さくな川野さん。本部長として我々のために働いてくれた二枚目です。

就職先 住友海上火災



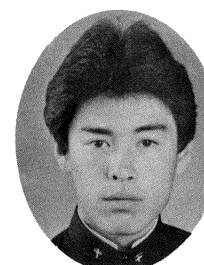
川本泰久 経済学部
 人目を気にせず、飄々とした風貌で、のっしのっしとやって来る川本さん。豪放磊落で大らかな人柄は、普段の生活だけでなく、その豪快で大型のテニスにも表われていますが、細かいことにもよく気付き、後輩に注意を促す、不思議な魅力の風来坊です。

就職先 東邦生命



沢井清隆 経済学部
 二部に帰って来たリーグ戦では、大事なポイントでよくがんばり、入れ替え戦では二部復帰の決定ポイントを取ってくれました。几帳面で、完全主義者の沢井さんの性格は、練習・試合に関わらず、ていねいで正確なストロークと、確実なボレーに表われていました。

就職先 資生堂



高橋守種 経済学部
 長い手足をブラブラさせて、ニコニコしながら我々の前にやって来ます。そのしなやかな四肢をフルに駆使したテニスもさることながら、「キョウハマ・デパート」「1月2日の神話」「海は大きな広いな」等、数々の名言を残した後輩のアイドルです。

就職先 千代田火災



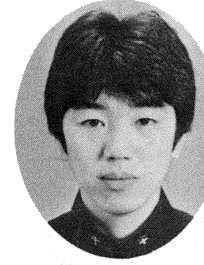
田坂文樹 経済学部
 四年生きっての、いや、庭球部員きっての芸達者と言えはる人、田坂さんにつきては「う。流し。プロ野球シリーズ。等々、もはや女人はだしの芸は必見です。テニスに関しては安定したフォアと、その体力にはある種の定評がありました。

就職先 そごうデパート



前野浩 経済学部
 湘南生まれの海の男・前野さんは、はっきり言ってテニス部内でも五本の指に入るプレイボーイです。その程度たるや、追コンのプレゼントがドレス帳だったというところでお解りいただけだと思います。テニスも大から始めたとは思えない、足を使ったネバリのテニスです。

就職先 日通航空



渡井英之 社会学部
 ダブルスの名手として、リーグ戦のポイントゲッターとして活躍した渡井さん、その抜群のテニスセンスは、部内でも屈指の存在ですが、ふだんは控え目な、後輩をおこったためしがなという渡井さんは、静岡全中を制したことがある、故郷を愛する優しい先輩です。

就職先 日通航空



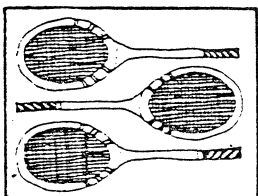
田中佐代子 文学部
 我々の為に四年間、裏方の仕事を立派に務め上げてくれたマネージャーです。ファミリアをスポーツカーのように乗り回すその御姿は、超ド迫力。またOB会費集めの鬼と呼ばれ、その集金力は、歴代マネージャーの中でもピカ一でありました。

就職先 キヤノンシステム販売



松本久子 文学部
 今にも倒れそうな、そのか細い体で、四年間よく頑張ってくれました。パーティーなどでキャットキャットと騒いでおられるその御姿は、まさに立教ギャルそのものです。これからも、その明るさを忘れずに！

就職先 阪急デパート



年度	主将	主務	部	リーグ戦戦績
25			2	5-4一橋, 7-2中大, 4-5明大
26			2	6-3一橋, 7-2中大, 7-2明大 (1, 2部入替戦 1-8東大)
27		高田 俊一	2	3-6明大, 6-3一橋, 8-1日大
28		大池 実	2	9-0一橋, 8-1日大, 8-1東大 (1, 2部入替戦 2-7明大)
29		堤 敬昌	2	7-2中大, 8-1日大, 7-2東大 (1, 2部入替戦 2-7法大)
30	長谷川督士	小野 真義	2	8-1日大, 8-1東大, 中大 (1, 2部入替戦 6-3法大) -創部40年目の悲願達成-
31	永山 勝三	山沢	1	1-8慶大, 2-7早大, 4-5明大 (1, 2部入替戦 8-1法大)
32		高梨 昌亮	1	0-9慶大, 1-8早大, 3-6明大 (1, 2部入替戦 4-5法大) -2部降格-
33		金田 藤正	2	6-3青学, 6-3日大, 9-0中大 (1, 2部入替戦 4-5明大)
34	河内 進	斎藤 俊介	2	9-0東大, 8-1青学, 8-1日大 (1, 2部入替戦 6-3明大) -1部昇格-
35			1	5-4早大, 3-6慶大, 5-4法大
36	小西 一三	鎗田 秀雄	1	
37	倉光 純		1	1-8慶大, 2-8法大, 4-5早大 (1, 2部入替戦 4-5明大) -2部降格-
38	高橋 道夫	笹山 隆男	2	
39			2	5-4日大, 5-4中大, 7-2学習 (1, 2部入替戦 7-2法大) -1部昇格-
40	木口久仁彦	大田 洋一	1	3-6慶大, 4-5早大, 4-5明大 (1, 2部入替戦 7-2法大)
41	倉光 哲	浜野 公哉	1	4-5早大, 6-3明大, 3-6慶大
42	石川 忠幸	若杉 正明	1	4-5明大, 0-9慶大, 6-0早大

年度	主将	主務	部	リーグ戦戦績
43	須田 健治	占野 靖宗	1	2-7早大, 2-7慶大, 1-8法大 (1, 2部入替戦 3-6明大) -2部降格-
44	朝倉 伸行	佐藤 雄三	2	6-3中大, 4-5青学, 4-5日大
45	宮下 好人	笠原賢次郎	2	6-3青学, 8-1日大, 6-3東大 (1, 2部入替戦 3-6明大)
46	安達 幸男	若井 新司	2	5-4成蹊, 6-3日大, 6-3青学 (1, 2部入替戦 2-7早大)
47	清水 春海	内原 康雄	2	9-0日大, 8-1成蹊, 8-1青学 (1, 2部入替戦 6-3明大) -1部昇格-
48	鈴木 明	浅見 豊	1	5-4法大, 5-4早大, 4-5慶大
49	大里 有	立野 公一	1	0-9早大, 2-7法大, 4-5慶大 (1, 2部入替戦 2-7日大) -2部降格-
50	鈴木 一広	佐藤 信夫	2	
51	石上 富一	竹崎 理浩	2	5-4青学, 8-1学習, 2-7明大
52	鷺田 典之	井筒 浩平	2	3-6青学, 1-8中大, 2-7法大 (2, 3部入替戦 5-4筑波)
53	秋元 英晴	角野 俊平	2	8-1東大, 6-3順天, 3-6筑波 6-3専修, 1-8青学
54	金原 厚	大塚 直人	2	6-3東大, 8-1千葉, 0-9筑波 4-5青学, 5-4学習
55	竹石 敬之	谷口 秀治	2	
56	伊藤 久幸	高橋 宏幸	2	
57	庄野 俊夫	竹下 喜六	2	
58	藤井 孝信	阿部 弘行	2	4-5専修, 3-6東海, 4-5青学 3-6早大, 7-2東農 (2, 3部入替戦 4-5日体) -3部降格-
59	藤原 誠之	横山 浩	3	9-0千葉, 9-0一橋, 6-3成蹊 5-4学習, 6-3東農 (2, 3部入替戦 7-2筑波) -2部昇格-

昭和25年度以降の主将主務、リーグ戦結果

立教大学庭球部名簿 (59年度)

Table with columns: 学年, 学部, 学科, 役職, 氏名, 〒, 住所, 電話. Lists members of the tennis department for the 59th year.

現役紹介

リーグ戦に向けて

昨年年度リーグ戦において、二部復帰を果し、本年度は、一部昇格を目指し、全部員一丸となって練習に励んでおります。

今年度の戦力は、昨年のメンバーであった四年が、五人も抜けたということで、当初大幅な戦力ダウンが予想されましたが、新たに立教高校から六名の新生が入部し、そのうち三名がメンバーに加わって、昨年と比べさほどの戦力ダウンは感じられません。

昭和六十年

リーグ戦日程

年中心の若いチームであるというところで、実戦経験が少なく、その力は未知であり、その点に多少の不安が残ります。また、二部全体を見回して見ても、本年は、中央・日大などの強豪を加え、昨年よりさらにレベルアップし、大変な激戦が予想されます。

四年生の言葉

卒業にあたって

今年もまたリーグ戦の時期を迎え、現役部員は最後の調整に余念のないようです。私達四年生は今春庭球部を去り、今後はOB会の一員として、先輩OB諸兄と共に立教大学庭球部の発展を見守っていくわけですが、卒業にあたり、四年生を代表して皆様に御挨拶を述べさせていただきます。

一年生の抱負

清 隆一郎

人間はなぜ生きていられるのか。それは生きがいがあるからである。その生きがいとは、何だろうか。それは勉強にはげむこととテニスをするのである。我々はこちらを選んだのである。我々ももちろんテニスだ。だから私は、新しい世界、体育会硬式庭球部に入部したのである。私はそこで生きがいを見つけて、四年間思う存ぶんがんばっていきたくと思う。

現役部員の声

鳴呼 下宿生 三年 佐藤 昭一

三年前、私は、はるばる福井から立教大学に入学したために花の東京で下宿生活を始めた。私は長く暗い受験生活から解放されてウキウキ気分であったので東京でのバラ色の生活は約束されていたと信じて疑わなかった。しかし、私は甘かった。東京は、田舎者には冷たい街であった。まず第一に私は標準語が話せなかった。そのために、私は人と会話する時に、まず頭の中で考えたことを標準語に訳さなければならなかった。しかし、

自分と立教大学

二年 牛込 耕二

入学して、はや二年、光陰矢の如く、時が自分の前を素通りしていった。この二年間、立教大学での生活を通じて、一体自分は何を学んだのだろうか。一年の春、立教大学の華やかさは、下宿生活の自分にとって馴染み深いのに馴染めない、そんなような輝きははなっていた。そのため、自分は、はじめの願いは、洋服などブランドのもの

編集後記

第三号を発刊するに当たり、発行が予定より大幅に遅れ、関係各位に大変御迷惑をおかけしましたことを、お詫び申し上げます。

着ようと努めたりした。(當時、金がなく買えなかった。)そして、テニス部への加入と心優しい先輩の愛情に包まれて、鬼のように、テニスに熱する日々が続いたのである。また、かわいい子がいるクラスの存在も忘れてはならない。つまり、この二年間は、クラブの友とクラスの友と共に歩んだものだったのである。立教大学は、何も、自分に与えてはくれない。その機会とチャンスを提供しているのに、遊んで利用して、いろいろなことを吸収していくのが、自分と立教大学とのつながりになるのだろう。